

早稲田大学数学教育学会シンポジウム

数 学 は 役 に 立 つ の か

— 改めて問う、数学教育の意義 —

日 時: 2010 年 6 月 19 日(土)

16 時 00 分 ~ 18 時 00 分

場 所: 早稲田大学 14 号館 717 教室

【趣旨】

算数は役に立つが、例えば「2 次方程式を解くことは何の役に立つのか」と言われることがあります。このように一般的に数学は生徒達にとって学ぶ意義や有用性を見出しにくい教科になっています。

このため新しい学習指導要領では、数学教育を改善し、生徒達が学習して身につけたものを日常生活や他教科等の学習やより進んだ数学の学習へ活用していくことを重視しています。

このシンポジウムでは「数学は役に立つのか」というテーマを設定し、高等学校において他教科の中での数学の果たす役割や意義について、教育の現場において経験豊富な物理科教諭の森田氏や情報科教諭の八百幸氏から現場にもとづいたお話ををいただき、数学の有用性や教科間連携・教科再編成の可能性について議論します。

また、早稲田大学において「1 万人の数学」を推進している滝沢教授からは学部教育における数学の重要性についてお話いただきます。

そして、そもそも学問が「役に立つ」とはそもそもどのようなことなのかも議論したいと考えています。

パネリスト: 森田 勉氏 (法政中学・高等学校、物理科教諭)

八百幸大氏 (早稲田大学高等学院、数学・情報科教諭)

滝沢武信氏 (早稲田大学政治経済学術院教授)

司 会: 武沢 護 (早稲田大学大学院教職研究科 / 高等学院)

問合せ: takezawa@waseda.jp まで